

平成 21 年 3 月 18 日

2008 年度後期 学科教育改善委員会(FD 研修会)議事録 [学部授業科目の部]

1. 開催日時: 平成 21 年 3 月 18 日(水)10:00-12:00, 13:00-15:30
2. 開催場所: S2 棟 3 F 都市システム会議室
3. 出席者: 安原一哉, 福沢公夫, 横山功一, 小柳武和, 沼尾達弥, 呉智深, 井上凉介, 金利昭, 山田稔, 小峯秀雄, 寺内美紀子, 原田隆郎, 信岡尚道, 村上哲(以上, 常勤教員), 植木(共通講座)田名部菊次郎, 伊佐治進, 金澤浩明, 木村亨(以上, 技術職員), 石川比奈子(学科事務職員)

司会: 沼尾, 小峯 記録: 村上

学科長挨拶

- ・ 出席の状況が芳しくないが, 授業を充実させるために, より一層気持ちを引き締め, 研修会に取り組んでほしい。

全体の進め方について

(沼尾・小峯)

- ・ 議事次第確認。
- ・ 時間が限られているので, 1 科目 5 分で, ケアしたこと改善したことにポイントを絞って説明してほしい。

数学(微分積分)(呉)

- ・ 比較的良好な成績状況であった。
- ・ 今年から RENANDI のシステム導入により, 学科毎ではなくなった。
- ・ 都市は 20 名、他学科学生も含まれている。
- ・ 最終テストの問題は、簡単になったためか、成績はよかったと思われる。平均で 80 点満点。呉先生の担当分は、2 位だった。

【質疑】

- ・ 点検表の 2 ページ項目 B を再確認。“2”に変更することにした。
- ・ レポートは RENANDI で問題を取得、提出という流れになっている。点検表との整合性をとっておく。

主題別セミナー A(金)

- ・ 自主的に調査を行う学生もあり, 良い成績を取得した学生もいた。
- ・ 遅刻が目立つ学生は成績 D となっている。
- ・ 補講回数 5 回。木曜日の 1 コマ目なので、1、2 続けて実施したことがあった。連続は、

現地調査の際には都合がよかった。

- ・ 中間のアンケートは実施していないが、学生からの意見は随時聞いている。
- ・ 遅刻が目立つ学生もあり、夜のアルバイトに関して注意を喚起したほうがよい。

<質疑>

- ・ 中間アンケートの実施についての議論があった。教養では中間アンケートの連絡ない。主ゼミの場合、実施の仕方を随時というほうが適当であり、形式的にでも記録として残しておくべきとの意見があった。

主題別ゼミナール B(沼尾)

- ・ テーマは、廃棄物とした。
- ・ 主題別ゼミナールのテーマごとの人数配分については、今後の課題であろう。
- ・ 学生の出席も良好であった。
- ・ 輪講や施設見学を取り入れた。
- ・ 2コマ連続を数回実施。施設の見学に充てた。
- ・ 着手学生は5名。すくなかった分、充実した内容になったと思われる。
- ・ 成績分布はよい。重要な事項についてはその都度コメントすることとした。最終アンケートは未着なため、届き次第着手する。

<質疑>

- ・ 現地見学の旅費などに関しては、学生から特に苦情はなかった。

主題別ゼミナール C(寺内)

- ・ 熱心な学生が多く、遅刻・欠席も少なかった。
- ・ 木曜の1時間目にすべて実施した。資料はすべて保存している。
- ・ グループ発表と個人発表がある。グループ発表の成果は寺内先生が保管、個人については新年度返却予定。遅刻もほとんどなかった。成績もよかった。課題がやさしかったかも？
- ・ 中間アンケートで授業の予習・復習に関する質問を行ったところ、自発的な学習について芳しくない状況であり、自己啓発を教授した。
- ・ 最終アンケートは未到着であるが、中間アンケートで指摘したことが反映されたのがよかったと思われる。
- ・ 大学の図書館のプレ調査は有効であった。改善は現地見学において、単なる見学にならないように、身近でプレ調査をやった上で実地調査を実施した方がよかった。
- ・

<質疑>

受講生の配属人数の調整について議論があった。発表日が2日間×2回となってしまった。発表そのものの時間に割かれた。その点はマイナス。4グループで行ったので、

グループ間の競争のようなものがあった点はプラス。

- ・ テーマ設定については、幅広く設定する努力が必要である。

主題別ゼミナール D(桑原)

- ・ D 判定の学生がいた、出席状況が芳しくなかったようである。
- ・ 現地計測を実施したことが有効だったと思われる。

主題別ゼミナール E(村上)

- ・ 発言回数を点数化した。
- ・ 自然災害に関するテーマとした。
- ・ 災害に関するビデオを 3 回鑑賞してもらった。

<質疑>

- ・ ファイルの授業記録と実施記録。変更した掲示物も授業計画に添えるとよいという授業記録の不備についてアドバイスがあった。

・

<主題別ゼミナール全体の議論>

- ・ 主題別ゼミナール担当教員グループで項目 C , Q1 について申し送りの文章を作成する。
- ・ 主題別ゼミナールの教育目標について確認があった。
- ・ 主題別ゼミナール間の人数バランスをつける方がよかったと思われる。一方で希望というものがある。その点の兼ね合いを考慮することも必要。
- ・ 今年度は、当初 19 名いた寺内先生の希望者を 16 名に絞った経緯がある。過去には、23 名という時があったが支障があったようである。
- ・ 学生の希望するテーマもあるうが、実社会ではそうならないケースもあるのではないか。
- ・ 一方、1 年生でもあり、興味あるテーマを着手した方が教育効果は上がるのではないか。
- ・ 社会的要求の統一
- ・ 今年担当した主ゼミ担当で、共通課題を取りまとめ次年度に引き継ぐことも必要。

・

物理学(中川・原田)

- ・ 丁重に依頼しているにもかかわらず出席がとられていない。

線形代数 II(仁平・村上)

- ・ 報告書式が古いので、最新のもので記述しなおしてもらう。

測量学(桑原)

- ・ 成績の状況の推移があるようであるが特に問題はない。

都市・地域計画(小柳・金)

- ・ 小柳先生と金先生の 2 名で担当している。

- ・ 歴史について興味を持てない学生がいた。
- ・ プリントが多いというアンケートでの意見があったが、その一方、プリントが多いのが良いという意見もある。
- ・ 興味が持てなかったという学生もいたことが、今後検討すべき点と考える。
- ・ 授業態度が良くない学生が散見される。
- ・ 専門基礎学力を満たさない学生もいた。
- ・ 改善表の（全体:1，分担:2）の記述について議論があった。教務 WG で主旨を検討することになった。

< 質疑 >

- ・ 改善表をとりまとめて作成する。
- ・ 昨年と比較して成績が上がったのは、ここを勉強するようしつこく言った効果。

材料力学(村上)

- ・ 前年度より成績が上がった。力学に対する苦手意識を持つ学生が減ったかもしれない。
- ・ 材料の破壊のようすのビデオを教材として利用した。

< 質疑 >

- ・ 材料力学も 5 年であり、力学系の科目での情報交換が必要。

数学解析Ⅰ(植木・小峯)

- ・ 複素関数の微分積分を教授している。
- ・ 応用、特に積分に重点を置いている。
- ・ 中間試験では、そこそこの点を取得しているが、最終試験では、ほぼ白紙の状況である。
- ・ 中間アンケートに対し、家庭学習を促した。
- ・ 教育内容レベルは、これ以上、下げられないので、現状を維持する。
- ・ 専門科目とのリンクについて、いくつかの意見があった。
- ・ できるだけ演習問題を解いて欲しい。

< 質疑 >

- ・ 中間試験後は、模範解答といっしょに返却。意欲的な学生（2 名ほど）は質問にくる。
- ・ 1 年次までの科目との連携では、関数の微分が弱い。複素数の範囲の基礎をしっかりとってもらえればいいが、原則この科目で教える。知識というよりは勉強する姿勢が必要。
- ・ 教育目標に達していない合格者がいる。

数理解析Ⅱ(横木)

- ・ 成績が前年度よりも少し低下したようである。
- ・ ファイルがなかった。

測量学実習(桑原)

- ・ 授業に取り組む学生の意欲について、技術員の木村氏他からも意見収集し、議論がなさ

れた。

- ・ 年々そうだが、意欲が違うような（簡単に取れると思う学生が多いような気がする。みんなでやると誰も動こうとしないようだ）ことを耳にしたことがある。誰も現場監督になりたくないとい状況はまずい。

建設意匠(寺内)

- ・ シラバス通り実施した。受講者数が少ない。
- ・ 再来年度の「デザイン空間論」に引き継ぐべく、課題を整理していく。
- ・ 受講生は、熱心に受講していた。
- ・ 教員としては、学生の進路希望を意識せず、テーマを幅広くとって
- ・ 3年後期に授業ガイダンスを行うのも良いのではないか。

<質疑>

- ・ 仮配属や就職活動との関連はおおよそある。建設専門にやっているが、他の学生に対して、増えない。ゼネコン受ける人が少ないのも関連しているようだ。
- ・ 設計演習や実験を重視しているためこの科目のような選択科目を軽視しているのではないか？

水理学Ⅱ(横木)

- ・ 25 名が単位を落としている。昨年度と比べると、単位を落としている学生が急増傾向である。
- ・ 追試を実施したが、3名合格したにすぎない。

土の力学Ⅱ(安原)

- ・ 講義曜日が月曜日であり、休日にも重なることが多かったため、学生の講義へのモチベーションを維持するのに苦労した。
- ・ 過去3年を振り返ると成績は徐々に上向き。
- ・ 中間試験後、ひとりひとりコメントし返却している。講義の中で演習をやっている。
- ・ 解答付きで答案を返却するなどの工夫を行っている。
- ・ 教材のHPアップを迅速にする努力を行う。
- ・ 座る座席を指定するなど、工夫した。

コンクリート構造学(沼尾)

- ・ 昨年度と比べて、単位取得状況が低下している。
- ・ 再履修者は、比較的成績が良かった。
- ・ 学習方法、特に自習方法に問題意識を持ち、レポート（任意の提出、自発的な学習意欲

の喚起を目途として)を課した。

- ・ 月曜日の取り扱いについて議論があった。教務委員会で議論して欲しい。

<質疑>

- ・ 追試は誰でも受験可能としたが、E以外の学生は受けなかった。追試の成績で最終成績をつけた。授業だけでなく学生の問題もある。

景観工学(小柳)

- ・ 成績の平均は、昨年度より少し低下しているようである。
- ・ テキストを使わず資料を配付。配布資料が多いことに不満がある。

上下水道工学(藤田)

- ・ 順調に進んでいるようである。

社会システム分析(金)

- ・ 出席を取らないと宣言して、1回だけ講義をしたら、受講生数が激減した。
- ・ 成績が下がった。授業への意欲が低下が要因の1つ。
- ・ 楽しく学習している学生が増えたような気がする。ガイダンスでこの授業の趣旨を理解してもらって受講してもらうよう配慮したい。

地下構造学(小峯)

- ・ 昨年度と比べると受講生が急激に減っている。今後の課題にしたい。
- ・ 中間テスト後に止めてしまう人が多かった。

<質疑>

- ・ 受講生の減少：取りやめの対策と授業の最初からの参加とは違う対応を考えることが必要。就職活動との関係はない。

交通システム(金・山田)

- ・ 不合格者が増えているようである。
- ・ アンケートの裏書が少ない。
- ・ 金先生と山田先生の成績の相関がない。
- ・ 満足度と理解度の向上を目指したい。
- ・ 予習・復習の時間は2極化の傾向があるようだ。
- ・ 教育目標を達成できない学生が出た。
- ・

構造力学Ⅱ(横山)

- ・ 昨年度と比べて、不合格者数が多い。
- ・ 出席はしているのに欠試がいる。
- ・ 特別資料を用いた分析結果で、力学系科目の単位取得状況に相関がありそうであることを報告。

河川・水循環工学(白川・横木)

- ・ 昨年度の履修状況も鑑みて、受講生数を増やす努力も必要である。隔週開講の建設意匠と同時に検討することも必要。
- ・ 実験のレポート提出日との関係があるかもしれないので、実験のレポートの提出日を検討して欲しい。

輸送施設工学(西島・橋本・藍郷・山田)

- ・ 配布資料に工夫を行った。
- ・ 各教員ごとのアンケート調査結果がまとめられた。

建設施工(武田・高津・山元・福澤)

- ・ 期末試験を受験した学生、全員が合格した。
- ・ レーザーポインターの取り扱いなどについて、要望があった。

都市設備及び住居環境(沼尾)

- ・ 成績の取得状況は、例年並み。
- ・ 板書の工夫という点で、ppt も活用していきたい。

都市システム工学実験Ⅱ(各教員・FD 担当村上)

- ・ 取止め者が3名いた。
- ・ 成績が若干低下している。
- ・ 過年度生で、実験を受講しているが、レポートの提出がなされていない学生がいた。

都市システム設計演習Ⅱ(各教員・FD 担当井上)

- ・ 各テーマごとに報告がなされた。
- ・ 予習・復習を実施しない学生が多い。
- ・ レポートの提出期限の再検討が必要である(他の科目の出席状況との関係)

構造工学(呉)

- ・ 授業を受けているのに欠試にする者が多い。
- ・ 途中で取止める人が多い。
- ・ 勉強の仕方が良くないのではないか。

専門英語(トゥール・横山)

- ・ 資料が間に合わず，点検せず．

都市システム工学学外実習(金)

- ・ 28 名が参加した．参加人数が低下した．
- ・ 来年度の動向についてコメント
- ・ 最終アンケートは実施していない。

< 質疑 >

- ・ 授業回数に対応する時間数のカウント方法（J A B E E の時間数カウント方法がある）を参照に記載する。他学科は少ないらしい、都市システムは工学部での盛り上げ役。

建設工学演習Ⅱ(横木，村上，原田)

- ・ 昨年度と同様の成績取得状況であった．
- ・ 予習・復習の喚起が課題である．

都市システム工学特別講義(桑原・信岡・原田)

- ・ 昨年度よりも成績が向上しているが，昨年度との評価基準の違いと思われる．
- ・ インターンシップ報告会との抱き合わせは賛否両論があった。
- ・ 同窓会と密接な関係を保っている。これを継続する。

全体に関すること

工学部シラバスは毎年更新しているが字数制限があるため、J A B E E シラバス内容を記載できないときがある。J A B E E シラバスの作成・更新は、別途必要のようである。J A B E E シラバスは改めて作っておいた方がいいという意見もある。

→ 要 継続審議

授業評価アンケートが今年度より、満足という意味が学力増進に変更されている。分担の場合は、適宜担当者で協議し、取りまとめ、分割した改善表を作成する。

科目担当が、全体か、分担かを取り決める。→教務WG

どこどこ研究室だからということで、選択科目を選んでいる可能性がある。いいことではない。セクショナリズムがある。特に、後学期で顕著である。

志望を決めたら、それに特化した受講の傾向がある。

3年後期の授業のガイダンスをやった方がいいのではないか？

高校で物理（生物、化学も）をとってきていない学生は？最初に取り組む科目である物理に対しての接続の問題もある。→学期初めのアンケートで把握

月曜日の授業の配慮

後期の選択授業の受講生数の問題：実験・演習のレポート提出のタイミングを配慮してみることも必要。

3 年の後期の選択授業の受講生数の問題。→要調査

以上